

平成 24 年度 石巻専修大学周辺仮設住宅の小・中学生への 学習支援事業

木村 民男*

1 はじめに

東日本大震災の被災により、石巻地域は甚大な被害を受け、多くの人命と財産を失った。沿岸部の学校はもとより、海岸や河川に近い学校も被災し、使用不能となった学校も多く、仮設校舎や他の学舎を間借りしている学校もある。また、住む家が流失・損壊したため仮設住宅で生活している家族も多い。そのような中で、小・中学生は仮設住宅からそれぞれの学校に通学しており、学習環境が必ずしも整っているとはいえない現状にある。特に、夏休み期間中は学校が休みになり、仮設住宅の狭い環境で長期間に渡って生活をせざるを得ない状況である。

そこで、夏休み期間中の数日間、石巻専修大学の施設を活用し、教職課程を履修している学生を中心に、近隣の仮設住宅に住む小・中学生を対象に学習支援を行うものである。

2 事業内容

- (1) 自主学習の支援（児童生徒が自分の学習したい課題を持参）の場を提供する。分からないことや勉強の方法について石巻専修大学の学生が学習支援する。
- (2) 児童生徒と一緒に来られた家族の方は、児童生徒の学習時間を利用して大学内の見学や図書館等を利用し、石巻専修大学を理解していただく。

3 日時・場所

- (1) 日時：8月21日（火）、8月22日（水）、8月23日（木）、8月24日（金）とする。
- (2) 時間：9時から11時（学習50分、休憩20分、学習50分）
- (3) 場所：石巻専修大学 2104 教室（予備教室 2201、2202、2203）

4 予想される効果

- (1) 本学の学生が児童生徒に学習支援を行うことで、小中学生が本学の学生に親しみを持ち、信頼の絆が深まると考えた。
- (2) 教職課程を履修している学生が、小中学生に対して学習支援を行うことによって、教育の実践的な学びの場になると考えた。
- (3) 石巻専修大学は地域との連携に努力しているが、地域住民の理解度が薄いと感じられるので、学習支援の機会に本学を理解し、親しみを持ってもらうことが大切であると考えた。

5 実施までの準備日程

- (1) 6月：仮設住宅状況調査
 - ①石巻専修大学周辺には、仮設住宅南境1～7団地、開成1～14団地の広大な仮設団地があり、児童生徒はそれぞれの学校へスクールバス等で通学していることが分かった。
 - ②小中学校の児童生徒数については日々変更があり、石巻市教委でも把握していないということであった。
- (2) 7月12日（木）石巻市教委打ち合わせ、各学校へ文書発送依頼。子供たちの学習支援になるということで全面的協力をいただいた。
- (3) 7月24日（火）申し込み締め切り（石巻市教委で取りまとめていただく）
- (4) 7月26日（水）学部長会で事業概要を説明し、了承を得た。
- (5) 8月20日（月）学習支援準備会（学生4人参加）

6 参加者

- (1) 定員：30名としたが、申し込みは19名、実際に学習に来た児童生徒は8名であった。（内訳：小2男1名、小3女3名、小4女1名、中1男2名、中2女1名、計8名）

*石巻専修大学 経営学部 特任教授

- (2) 保護者の参加は 2 名であり、図書館等を利用した。
- (3) 学生の学習支援ボランティアは、4 日間で 8 名、延べ 15 人であった。

7 学習支援状況

- (1) 事前打ち合わせ（学生の考えをできるだけ取り入れて計画を練り直した）
 - ① 4 日間で都合の良い日をお互いに出し合いながら調整し、一日最低二人が支援に当たることにした。
 - ② 人数が少ないので、小学生と中学生の 2 グルーに分けることにし、役割を分担した。
 - ③ 各教室で、出席や体調の確認をし、始めと終わりのけじめを付けさせることや各学級の約束（手を挙げて質問する、トイレに行きたいときは遠慮しないで話すなど）を決めた。



- (2) 全体指導（前に児童生徒を迎える言葉を学生が書いてくれた。）

- ① 学生のアイデアで参加者一人一人の名前を黒板に書いて親しみやすくしてくれた。
- ② 学級の約束事を伝えた。



- ③ 子供たちは学生の話を真剣に聞いていた。
- ④ 子供たちの学習意欲が姿勢に表れている。

(3) 個別指導

①小学校2年生への学習支援（小学校2年生ではただ一人の参加者である）

- ・緊張のためか、はじめはほとんど話をしないでしたが、男子学生が冗談を言いながら子どもの気持ちを和らげていた。
- ・2日目以降はこの学生ととても親しくなり、何でも話すようになった。
- ・漢字の書き取りも丁寧でしっかり書いていた。褒めたら笑顔が返ってきた。
- ・手前の小学校3年生のお姉ちゃんは、はじめは弟を気遣っていたが、後半は自分の勉強に専念していた。



②小学校3年生への学習支援（小学生の学習を見守る姿にゆとりが感じられるようになった）

- ・小学校3年生の友達同士の児童で、学習態度が積極的である。
- ・はじめから学生に進んで質問してきたが、学生は「まず自分でやっごらん」と助言し、見守っていた。
- ・学生には見守ることの大事さを事前に指導しておいたので、ゆとりを持って接していた。学生の成長が見られた。
- ・二人とも宿題のほかに自主勉強をしていた。
- ・母親が送り迎えをし、合間に図書館に寄っていた。



③小学校3、4年生への学習支援

- ・子供の目線に立って学習支援を行っている。
- ・学生の優しい表情が子供たちに安心感を与えていた。
- ・初めに3年生の二人に支援してから、右側の黄色いシャツの4年生にも丁寧に対応していた。



③ 中学校 1 年生への学習支援（マンツーマンの支援で、生徒たちはとても喜んでいて）

- ・中学生の生徒と一緒に考えている姿が良い。
- ・助言も適切で、生徒の考えを待つ姿勢も良い。
- ・穏やかな表情が生徒に落ち着いて考えるゆとりを与えている。



- ・学生の子供たちに寄り添う姿が良い。



- ・中学生も真剣な学習態度であり、学生も一緒になって考えてくれていた。

8 参加者の感想

(1) 児童生徒

- ①宿題を全部終わらせることができてよかった。
- ②大学のお姉ちゃんやお兄ちゃんに親切に教えてもらった。
- ③大学は教室が広く、涼しくてとても気持ち良かった。

(2) 学生

- ①休み中で朝が早かったので、一関や仙台から自家用車で来たので大変だった。
- ②はじめのうちは子どもたちとの関係がぎこちなかったが、慣れてきたら気軽に声をかけてくれたのでうれしかった。
- ③教えるということは難しかったが、楽しかった。良い勉強になった。

(3) 保護者

- ①大学構内には一般の方は入れないと思っていた。図書館を利用できてよかった。
- ②孫二人を参加させてもらった。学校からの紹介プリントを見て、これはいいと思い私が申し込んだ。津波で家が流されたが、家族全員命が助かったので力を合わせて頑張っていきたい。
- ③大学生に親切に教えてもらい、子供たちは4日間喜んで参加した。来年も実施してほしい。

9 おわりに

(1) 成果として次のような点が挙げられる。

- ①石巻専修大学という普段と違った学習環境の中で、児童生徒は新鮮な気持ちで学習に取り

組んでいた。参加者は喜んで参加し、ほとんどの児童生徒は4日間出席した。

- ②学生には事前に学習支援の在り方や児童生徒への接し方を指導しておいたので、児童生徒への学習支援の対応が適切であった。学生は、4日間で8名、述べ15名が参加してくれた。
- ③児童生徒及び保護者等に石巻専修大学を知っていただく良い機会となった。
- ④児童生徒と笑顔で対話するなど、学生の児童

生徒に対する学習支援に成長がみられた。

- (2) 反省点として次のような点が挙げられる。

- ①参加者が少なかったのは、周知する日数が少ないことや児童生徒の行事が多いためと思われる。
- ②今年度は年度途中の事業だったので、事業組織や予算面で計画性がなかった。来年度は人間学部が新設される予定なので、学生の勉強のためにも計画的な事業実施が必要である。

仮設の子に学習支援
石巻専修大は21日から24日まで、近隣の仮設住宅に住む小中学生のための学習支援教室を開いている。
初日は1人が参加小中学生に分かれて2教室で実施した。同大の教職課程を履修している学生を中心に6人が先生役を務め、子どもたちは計算ドリルや作文などの課題を持参。分からない所を学生に質問する形で進められた。



▲ 好評だった学習支援

仮設住宅の小中学生の自主学習を支援
木村特任教授と学生6人
生らが、東日本大震災で被災した小中学生の学習支援活動に取り組んでいる。
木村民男特任教授と学生6人は、8月21日から24日まで、南城地区など本学周辺の仮設住宅に住んでいる小中学生を対象に、大学の教室に招いて自主学習の支援を行った。

被災した小中学生は学習環境が万全とはいえないことから、木村特任教授が学習支援教室を開くことを提案。教室は小中学生がそれぞれの課題を持参し、分からないところを学生に質問する形式で進められた。参加した中学生は「夏休みの宿題や自由課題を大学生に教えてもらい、理解が進みました」と感想を話した。また、関東圏の教員を志望する大学生を宮城県

「最初はコミュニケーションの取り方を教える方が手探り状態だった。かみ砕いて説明することで解き方を理解してもらえた」と述べた。
学習支援教室は毎休み中の子どもたちに学習の場を提供しようと開講。関係者以外にも図書館や食



に派遣し、中高生の学習支援に取り組んでいるNPO法人「TEDIC」の活動に、4人の学生が協力。「チーム石巻」を結成し、今年4月以降、毎週土曜日に学習支援活動を継続して行っている。